

企業の社会的責任(CSR)は、在日米国商工会議所(ACCJ)の活動の主要な柱のひとつとなっています。

企業は良き企業市民として、自らが奉仕するコミュニティの責任ある参加者となり、社会の安全に役立つインフラストラクチャーや、消費者保護を目的とした適切でバランスの取れた対策への投資を支援しなければならない、とACCJは考えています。こうしたことは、社会全体の経済的安定に欠かせません。

ACCJは長年にわたり、CSRの概念を日本でさらに発展させ、実行すべく努力を続けてきました。

2006年

ACCJは、CSRとは何であるかを明らかにするためのタスクフォースを立ち上げ、会員企業が取り組んでいるCSR活動を把握するために調査を行い、その調査結果を取りまとめた報告書を年末に発表しました。

2007年

2006年の実績をもとに、ACCJは常設のCSR委員会を設置しました。その目的は、CSRに対する意識を高め、CSRのベストプラクティスを浸透させ、日本で行われているCSRに関する対話に継続的に貢献することです。CSR委員会は年間を通じて、CSRに関する対話、事業におけるCSR(責任ある職場)、NPOの関与をテーマに、世界的に有名なCSR専門家を多数招きました。また、CSRトリビア・ナイトを開催し、特別ゲストを迎えて楽しいイベントを行い、ACCJの2007年チャリティー活動のための寄付金を集めました。

2008年

2008年は、企業やコミュニティの活動にCSRを根付かせることに力を注ぎました。個人、組織、コミュニティの三者が同時に満足する「トリプル・ウィン」の状況を作り出すために、個人や組織、政府がCSRやサステナビリティ(持続可能性)への取り組みを積極的に活用している様子について、さまざまな人々が論じました。CSR委員会は、日本政府が行う「再チャレンジ支援プラン」を活用して再就職を目指す女性に雇用機会を提供する「ソフトランディング・プログラム」の創設もサポートしました。さらに、CSR委員会は、「ACCJ 60周年『還暦』特別企画：CSRの諸相」と題したイベントを開催し、この中で「ソフトランディング・プログラム」の創設の発表と、元内閣府特命担当大臣(少子化対策・男女共同参画)上川陽子氏の講演を行いました。また、企業のリーダー達をパネリストに迎え、企業がどのようにCSRを根付かせ、CSRから恩恵を受けているかについて、ディスカッションを行いました。このイベントは、サステナビリティの分野で世界的に著名なリーダーであるマイケル・ヘイスティングス卿の基調講演で幕を開け、組織やコミュニティにCSRをさらに取り入れる方法を紹介する「コミュニティ・アクション・ラーニング」で幕を閉じました。

2009年

今年、ACCJのCSR委員会は「グリーン思考」と、「グリーン市場」の商業化および最終的な発展の關係に焦点を当てました。「グリーン市場」の最終的な発展は、実業界の率先的な取り組みと、地球の未来を変える革新的な製品を消費者が受け入れるかどうかにかかっています。CSR委員会は「グリーン・マーケット・フォーラム」の中で、グリーンビルディング、グリーン製品、グリーンキャリアを取り上げ、長期的視点に立った責任ある意思決定と内部統制の向上を呼びかけました。

2009年のCSR委員会の活動としては、不透明な経済下のニーズが新しい技術力と融合し、今日の職場の本質そのものを変えつつある中、この急速に変化する環境において会員が先頭に立ち続けるための支援を行いました。

在日米国商工会議所(ACCJ)の会員企業は、良き企業市民として、自社が事業を営むコミュニティに奉仕し、支援すべきであると考えています。会員企業によるコミュニティへの貢献を一層促進するために、ACCJは10年前にコミュニティ・サービス・プログラムを創設しました。

ACCJは1995年の阪神淡路大震災の際、初めて大規模なチャリティー活動を行い、被災者のための募金活動を実施しました。まず、ACCJの一般会計から500万円を寄付し、その後3,000万円余りの義援金を集め、被災した人々に寄付しました。この活動の成功を受け、このような活動を行う恒久的な仕組みとして、ACCJ理事会はコミュニティ・サービス評議会(CSAC)を設置しました。

1997年にCSACは、価値あるコミュニティ・サービス・プロジェクトを支援するために会員から寄せられた寄付金を管理する役割を担いました。支援の対象となるプロジェクトには、米国の企業、家族、青少年団体のためのチャリティー活動だけでなく、日本の社会福祉団体のための活動も含まれます。開始以来、集まった寄付金は2億円を超え、日本国内および周辺で行われる多数の価値ある福祉活動や慈善事業に分配されています。

CSACは、現在もACCJのコミュニティ・サービスへの寄付金を管理しており、寄付金が日本国内で使われること、50万円～300万円の寄付金が大きな貢献となるような小規模な団体であること、という基準に従って、寄付先を選定しています。

ACCJは長年にわたり、多数のチャリティー活動や募金活動を実施してきました。一例を挙げると、歩くことでチャリティーに参加する毎年恒例の東京チャリティーボール・ウォーカソン、関西ウォーカソン、中部ウォーカソン、会員向けの募金活動のほか、1995年の阪神淡路大震災や2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ、2004年の新潟県中越地震といった大災害時に、ACCJは特別募金活動を行ってきました。

2009年には、2,400万円以上をさまざまな慈善活動に寄付しました。寄付先には、東京のホームレス支援団体、児童養護施設、重い病気にかかった子供や家族、虐待を受けた女性とその子供の支援と保護施設、乳がん研究、心身に障害を持つ子供のためのキャンプ、困窮者への食料の配布、人身売買禁止活動、孤児やネグレクトを受けた子供のケアなど価値ある活動があります。

ACCJは、価値ある団体の支援やコミュニティのニーズに応える活動に毎年誇りを持って取り組んでいます。また、会員とその企業に対しては、自身が暮らし、働くコミュニティに利益を還元する活動に参加する機会を提供しています。

2009年の主な寄付先(下の写真を参照)

- ・ エリザベス・サンダースホーム
- ・ セカンドハーベスト・ジャパン
- ・ ポラリスプロジェクト
- ・ ACCJホームレス基金

